

氏 名：朝澤恭子

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第116号

学位授与年月日：2014年3月10日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文審査委員：森 明子（聖路加看護大学教授、主査）

堀内成子（聖路加看護大学教授）

中山和弘（聖路加看護大学教授）

市川 智彦（千葉大学）

博士論文審査結果

審査日：2014年1月24日

研究科委員会提出日：2014年2月18日

看護学研究科博士後期課程	氏名 朝澤恭子
専攻分野	看護学専攻 ウィメンズヘルス
論文題名	不妊治療中のカップルに対するパートナーシップ支援プログラムの効果
審査委員	

審査の合否および評価 合・否

本論文は、生殖補助技術を用いた治療を予定する一般不妊治療中のカップルに対して、パートナーシップ支援プログラムを実施し、パートナーシップ向上、QOL維持、精神的苦悩(Distress)の緩和、パートナーとの関係満足度の向上に効果があるかを検証した。一医療機関での、年齢をマッチングさせたプログラムを受ける介入群 76 組と受けない比較群 83 組の、2 群事前事後テストデザインの準実験研究である。プログラムはカップルの小集団を

対象に治療を受けるための情報提供を中心とした講義と参加型演習である。

審査での指摘事項は主に、結果を導く分析の不足すなわち結果に影響を与えた可能性のある交絡因子の追求と、その影響を排除した分析が不十分であること、結果の記述構成に不備があること、考察が不足していることの3点であった。

ベースラインにおいて、2群は基礎疾患および婦人科疾患の有無で有意差がみられた。また男性においては、有意差はないものの、パートナーシップの下位尺度(精神的サポート)、FertiQOLの下位尺度(関係)、夫婦関係満足尺度で介入群が低い傾向がみられた。これらの影響を取り除く調整を行って分析する必要があること。さらに対象属性とプロセス評価との関連や、プロセス評価とアウトカムとの関連を分析するとよいこと。プログラムのどこが誰にどのように効いたのか、より綿密にみてもよい必要がある。

結果が仮説の順に記述されていないため、わかりづらい。主張したい結果を効果的に表示すること。

考察では介入プログラムの理論的基礎に基づいた検討がなされていない。パートナーシップ支援がなぜ健康に効くのか、ストレス認知やソーシャルサポートの観点から考察すること。カップル双方にプログラムを提供して効果が女性に認められたことの意味をもっと大切に書き込む必要があること。

これらの指摘事項について、多元配置分散分析を加えたところ、介入プログラムによって、基礎疾患のない女性において、Distress得点が下がっていた。これを加筆し、その他の事項についても修正を加えた。修士論文でカップルの悩みに着目し、とくに治療における男性の体験を探求し、続けて予備研究で関連因子を絞り込み、合わせてプログラム開発を行い、研究を積み重ねて本研究に至っている。本研究で用いたパートナーシップ支援プログラムは、不妊治療を受けるカップルに対する臨床での実用化が十分に期待されると評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。